

## 函館市交通事業経営ビジョンにおける主要施策以外に対するご意見・ご質問

主題	ご意見・ご質問	ご意見・ご質問に対する企業局の考え方
<p>上下水道・交通事業における2020年実績および業績見通しについて</p>	<p>各事業における2020年度財政計画が記載されておりますが、コロナ禍による水道料金、下水道使用料、乗車料金収入への影響が大きいと思われます。至近(第二四半期など)における実績につきましてご教示願います。</p> <p>また、至近実績を受けた2020年度の収入見通しや、支出の計画変更を含めた業績見通しにつきましてもご教示願います。</p>	<p>水道料金、下水道使用料および乗車料金につきましては、いずれもコロナ禍による観光客減少などの影響を受け、特に第1四半期への影響が大きく、その後、回復傾向が見られたものの、11月頃から全国的に感染の広がりが見られるなど、今後の予測が困難な状況にあります。</p> <p>このような中、各収入の4月から9月までの実績(税抜き)につきましては、水道料金で、約18億8,000万円(対当初予算95.6%)、下水道使用料で、約20億円(対当初予算96.2%)、乗車料金で、約2億4,000万円(対当初予算47.8%)となっております。</p> <p>2020年度通年での収入見通しにつきましては、今年度実績と前年度実績との減少率などを勘案し、水道料金で、約37億9,000万円(対当初予算96.6%)、下水道使用料で、約40億3,000万円(対当初予算97.1%)、乗車料金で、約5億3,000万円(対当初予算57.6%)を見込んでおります。</p> <p>また、支出の計画変更につきましては、水道事業会計および公共下水道事業会計のいずれも料金収入の減額に伴う支出の計画変更は考えておりませんが、交通事業会計につきましては、乗車人員の減少に合わせ、運行間隔を6分から7分間隔とし減便を行ったほか、箱館ハイカラ線を運休するなど支出をできる限り抑えているところであります。</p> <p>これらを踏まえた業績見通しにつきまして、当初予算で見込んでいた純損益との増減で申し上げますと、水道事業会計では、約1億2,000万円純利益が減少、公共下水道事業会計では、約9,000万円純利益が減少、交通事業会計では、当初予算の時点で純損失を計上しており、この純損失が約3億6,000万円増加するものと考えております。</p>